

えさしちょうれき  
江差町 歴まち商店街協同組合（北海道江差町）

# 歴史を生かした 交流のまちづくり・商店街づくり

江差町歴まち商店街協同組合

監事（前理事長）

むろや もとお  
室谷 元男



## 1. 江差町の概要



北海道の南西部に位置する江差町

北海道の南西部に位置し、目の前にかもめ島を抱く江差町は、北前船交易により北海道の中でも古くから開けた港町のひとつと言われています。800年前に和人が住み着くようになり、北海道文化発祥の地と言われている。

江戸時代には、檜材（ヒバ）やニシン取引により、「江差の5月は江戸にもない」と謳われるほど、商業の町・文化の町として繁栄を極めました。また、檜山振興局の所在地として管内における政治、経済、文化の中核的機能を果たしており、総合計画に基づき「自然・歴史・文化が輝く北の交流拠点—えさし」を目指したまちづくりを行っています。

また、江差町は、日本を代表する民謡の一つ「江差追分」の町として知られているほか、檜山道立自然公園に指定されている「かもめ島」や日本夕陽百選にも選ばれるなど、文化財だけではなく、自然景観にも恵まれた町です。



江差町全景とシンボルの「かもめ島」

## 2. 活動開始の背景・経緯

江差町には、北前船の往来を背景に檜材とニシン取引に関連した問屋、蔵、商家、町屋、それに社寺などの歴史的建造物や史跡、旧跡が数多く残されています。特に歴史的資源が数多く集積している「中歌町、姥神町一帯の旧国道沿い地区」（通称：いにしえ街道）は、平成元年に北海道より歴史を生かすまちづくり事業（歴まち事業）のモデル地区として選定され、歴史的、文化的遺産を生かした街並み景観を創りながら、歴史的景観形成建物の保全・整備のみならず、町民の生活環境の質的・精神的・経済的向上に寄与しています。

これらの地域資源を活用したまちづくりと商店街活動を行うことを目標に江差町歴まち商店街協同組合（以下、「歴まち組合」呼称）の取組が始まりました。



街路工事着手前の「いにしえ街道」

## 3. 歴まち事業の展開

いにしえ街道が、北海道の戦略プロジェクト「歴史を生かすまちづくり」（通称：歴まち事業）に指定されたことにより、景観に配慮した街なみづくりが推進されたほか、道路を拡張整備したことで、これまでの一方通行から対面通行が可能となり、建物のセットバックや電線の地中化なども行われました。

また、歴まち事業の整備地区には、国指定重要文化財の旧中村家住宅、道指定有形民俗文化財の横山家、北

海道最古の姥神大神宮などの歴史的建造物があり、計画策定・調整（H1～H8）に十分な期間を用意し、住民と行政の協働作業である姿勢を大事に計画が進められました。さらに街路事業許可・着工完成（H8～H16）までに、歴まち組合が「歴史を生かす」ことをキーポリシーとした地道な取り組みを行ってきたことで、地域住民や行政機関の理解が深まり、協力体制も整っていきました。

江差町の歴まち事業の大きな特色は、全国で行われている「保存型や統一感を持った街並み」と異なり、『多年代多様式』の街並みづくりで、変化に富みながらも統一感をもった街並みを形成しています。



平成16年度に完成した「いにしえ街道」



変化に富んだ多年代多様式の景観

街路完成後は、歴まち組合が中心となり、地産地消、地材地消を心がけ、街路住民・地元住民、来訪者にも喜んでいただける観光を含めた四季折々の様々な地域活性化を図ってきました。

現在では、組合活動の拡大に伴い、分科会（百人の語り部、夢作宣伝部、江差朝市・新鮮組実行委員会、江差

いにしえ資源研究会)を設置し、専門家と共に更なる地域の魅力の掘り起こしを行っています。

#### 4. 歴まち組合の様々な活動

「いにしえ街道」の整備事業と併行して、平成4年に任意組合を組織し、平成8年に「江差町歴まち商店街協同組合」が設立されました。

当初は数軒だった加入店舗も現在は30軒ほどに増加し、歴史や文化・人材などの地域資源を『守り』『育て』『創る』といった視点で様々な活動を展開しています。

活動目的は北前船がやってくる江差の原風景「江差の5月は江戸にもない」という当時の賑わいを再現することです。



当時の繁栄の様子を伝える「江差屏風」

活動の中で、歴史を見直す意識が高まり、店主や商店街区の住民がボランティアとして、観光客などの来訪者に対し、江差にまつわる得意テーマを語りながら、おもてなしの心をもって町の魅力を伝える「百人の語り部」事業を実施しています。

語り部の居場所を記した「語り部マップ」の評判も良く学修旅行や自主研修など、いにしえ街道全体が総合学習の場として活用されています。



地域の魅力を伝える「百人の語り部」

また、商家などに伝わる屋号や家印をデザインした竹かごで作ったあんどん、(通称:炭ころりん)を商店街区の140世帯に無料提供し、いにしえ街道沿いに設置しました。いにしえの文化と職人の技で制作したあんどんは、歴史的景観と調和し、和風イルミネーションとして町民に喜ばれています。

春には、歴史的建造物や街並みを生かした「いにしえ夢開道」イベントを実施し、そのメインとして、いにしえ街道を舞台に江差の昔ながらの結婚式を再現する「花嫁行列」(参加カップルは募集にて受付)を平成23年度より実施しています。



昔ながらの結婚式を再現「花嫁行列」

夏には、歴まちの景観形成推進の意識高揚と啓蒙を図ることを目的に「夕焼けコンサート」や環境について考えるイベント「江差町ガイアナイト」などを実施しています。

秋には、いにしえ街道に点在する土蔵を探訪しながら健康推進を目的としたガイドウォーキングなども実施してきました。

冬には、年末年始の年越しイベントのほか、全国各地のひな人形を譲り受けて、おもてなしと対話による体験観光の推進を図ることを目的に「江差北前のひな語り」を実施しています。期間中は、全国各地から頂いた180セットものひな人形が歴まち街区に展示され、冬の新たな観光資源へと定着してきました。



来町者との交流を図る「北前のひな語り」

#### 5. 交流の輪が広がり深まる

地域資源を活用した各種地域活性化事業(半島交流事業、花嫁行列、北前のひな語りなど)を積極的に推進してきたことで、地域住民、行政関係者に認知され、参加協力者が大幅に増加しました。本年3月の北海道新幹線開業を見据えた渡島半島・津軽半島・下北半島の三半島交流連携事業を長年に亘り継続してきたことで、半島間の交流の輪が広がり、郷土芸能である江差追分や餅つき囃

子等の披露をきっかけに、青森県下で初となる江差追分会青森県津軽支部が設立されました。また、交流の場の起点となることを目的に、いにしえ街道沿いの地域資源である土蔵を改修整備し、コミュニティカフェを運営したことで、北海道内や青森県の地域づくり団体との交流が加速しました。これら事業の実施などにより、平成27年度の江差町の観光客入込数は前年比8千人増の33万5千人と交流人口の拡大に繋がっています。昨年には江差町が「日本で最も美しい村連合」への加盟が認められ、現在は「日本遺産」認定に向けて官民上げて構想を策定中です。両事業とも当組合の活動が大きな契機となっているところです。

#### 6. 課題と展望

いにしえ街道の景観の保全活動を継続的に行って行くことが重要であることから、平成24年からは、土蔵活用プロジェクトを実施し、歴史的建造物の保存活用に向けて「旧江差日石土蔵群」の整備を進め、山形の東北芸術工科大学の准教授などを招聘し、ワークショップ等を実施しながら拠点施設となる『職人蔵』の整備活動を行っております。手仕事ができる職人を呼び込み「北前の文化と職人の技」で後継者育成を考えながら地域の活性化を図ることを目的に取り組みを行っています。

平成27年には歴まち組合の役員体制の若返りを図り、既存事業の充実強化と新規青函圏交流事業(津軽海峡ヒバサミット in 檜山)などを実施しました。世代交代を徐々に図りながら、後継者の育成を行い、平成28年の北海道新幹線開業を契機として、今後更に地域資源を大切にしたい交流人口拡大に向けた取り組みを行うことで、魅力あるまちづくり・商店街づくりに繋げていきたいと考えております。



津軽海峡ヒバサミット in 檜山での植樹記念撮影